

光陵だより

昭和47年12月23日発行
 第9号
 発行所 光陵高校PTA
 編集者 広報委員会
 印刷所 たいへん印刷

天晴れ！「光陵生」

PTA会長 斎田幸三

もし六大学野球のリーグ戦で東大が優勝したとしたら、きっと皆さんはビクッすると同時に、「さすがは秀才の集まり、やっただ」と感嘆の声を発する事でしょう。

この喉えが適切かどうか知りませんが、それに近い事が起りました。既に御承知の方もあると思いますが、我が光陵高校の野球部が県の高校軟式野球秋季大会と云う公式の大会で見事、準優勝と云う偉業を成し遂げました。

野球部が出来て僅か六ヶ月ばかり、さすがは光陵健児！私は心から賞讃の拍手を送りたいと思います。

夏の大会には校長先生と一緒に応援に行きましたが、初戦で慶応に1対0で負けました。

点差で見ますと惜敗と云う感じがしますが、内容は大変お粗末なものでした。初赛的なミスが余りにも多いので早速に申しまして他校と互角に戦えるように成るにはあと二、三年はかかると思われました。

それが何故期間でこれだけの成果をあげられただのしょうか？それは酒の良いい生徒達が本心にやる気で練習に励んだ結果だと思えます。



野球部丈ではありません。他の運動部も、体育館が出来、そしてグラウンドが整備されると同時に其の活躍がめだつて来ました。

何十年と云う伝統を持つ。尤他の高校と互角に、或いはそれ以上に戦えるのも「光陵生」ならではの集中力とチームワークの賜物だと思えます。

私も昔、野球部でまじしく鍛えられた者の一人ですが、昔も今も運動部のまじしさは変わりません。

先輩に対する礼儀、後輩に対する思い遣り、同輩に対する友情、運動部は我々が社会で生きて行く上で一番基本となるものを無言の裡に教えてくれます。

私は十五才の時母親に、十七才の時父親に死なれ、幼い妹二人を抱えずい分苦労して来ました。しかしどんな逆境に立たされても、それに耐えそれをどうやら克服して来たのも運動部で培われた精神力の賜物だと思っております。

相談のすすめ

校長 原田賢三

先日発表された文部省の調査によると、中・高校生が悩みの相談相手として教師を選ぶのは一〜二パーセントにすぎないという。十年前にも同様の調査があって、同じような結果が発表された。その後も何回か教育新聞や教育雑誌が同じ問題を取り上げている。その限りに於いて別に基外なことではないが、どうあからさまに突きつけられては、私たち当事者はやりきれない気持ちになる。しかも中・高年生の悩みで圧倒的に多いのが、「学習に関すること」と「将来の進路に関すること」であるという。いずれも教師が相談相手として最良の者であるのに生徒は余り相談しないというのがこの調査結果である。本校の場合もその通りだといえるのであろうか。